



●想定外の異動で暗い気持ちに

大手海運会社に新卒で入社して8年目の暮れ、当時私は営業部に所属していましたが、顧客訪問の帰り道、上司から突然「もう少し田代さんと仕事があったなあ」と切り出されました。営業部在籍は4年となり、そろそろ別の部署へ異動だと思っていたので、来るべきものが来たなって思いました。

「それで、どこの部署ですか？」と聞いたら、「人事だよ」と返ってきました。「えっ、人事部？」一瞬言葉を失いました。営業部では、国内外でそれなりに実績を上げていましたので、次は北米の駐在員だと思っていた。人事部への異動は私の頭の中にはありませんでした。

「わかりました」と答えるのがやっとでした。人事部には入社する際にお世話になりましたが、入社後はほとんど接点がありませんでした。どんなことをしている部署かは、おぼろげながらわかっていたのですが、本当に自分にできるのか全く自信がありませんでした。これまで営業部で積み上げてきたものが活かされず、また一から出直しかと少々暗い気持ちになりました。

●最初は泣ける仕事ばかり

年が明けて翌年1月、人事部に着任しました。最初に担当したのは、新卒採用と教育研修でした。それまでの営業部時代は、朝早く出社して、9時過ぎには顧客訪問のため外出し、お昼をは

さんで夕方近くまで外にいましたので、静かなオフィスでの内勤が苦痛でした。あまりの環境の違いに、「この先どうなるんだろう」と不安になりました。

最初の仕事は、社内研修の事務局でした。参加者に案内状を出したり、研修所に連絡して、教室や宿泊の手配などを担当しました。そして、着任早々、(私の3期下の)5年目社員の研修で、ファシリテーター(司会)役も務めることになりました。少し前まで、顧客相手に営業をやってきた人間が、研修の事務局兼ファシリテーターなど簡単にできるはずありませんでした。さらに、研修参加者の中から、プライベートを優先したいから、週末に行われる研修には参加しないと申し出る者がおり、その彼の説得にあたりました。「営業で頑張ってきた俺が何でこんな目にあわなければならないんだ」と、本当に泣けてきました。

何とか社内研修を無事乗り切りましたが、安堵する間もなく、3月下旬となり、今度は新入社員の受け入れにあたることになりました。バブル崩壊後の1993年のことでしたが、新入社員は総合職15名、一般職30名くらいだったと思います。入社予定者一人ひとりと連絡を取り、配属先を伝えました。その中でどうしても連絡がつかない者が1名いました。どうせ海外に卒業旅行にでも行っているのだろうと思っていましたが、入社式まであと2日という土壇場になって、突然ファックスが会社に届きました。それ

には、「内定を辞退します」と書かれていました。その彼には、一度も会ったことがなかったのですが、上司から、「すぐに会って事情を聞いてこい」と、ひどく怒られました。

入社前々日に突然の入社辞退。「そんな話は聞いたことがないぞ。いったいどうなっているんだ。だれがこんな非常識なやつに内定を出したんだ」って心の中で泣きながら、その彼が住んでいるはずの本郷のアパートに行きました。しかし、部屋はもぬけの殻でした。ファックスがコンビニエンスストアから送信されていたので、嫌な予感はしましたが、それが的中し、結局彼を捜し出すことはできませんでした。すぐに広報室に連絡して、新入社員を紹介する社内報の記事から、彼の顔写真を掲載しないように手配できたのがせめてもの救いでした。

●新卒採用の仕事でようやく笑顔

苦難の3カ月が終わり、4月に入り新入社員を迎え、入社式、新入社員研修の手配を担当しました。初めて会う新入社員の入社の手伝いをし、彼らも私を兄のように頼ってくれました。人事部に来て初めてやりがいを感じました。

研修が終わると、新入社員は各配属先に散っ

ていき、次に待っている仕事は、新卒採用でした。当時、バブル崩壊後の不況に加え、円高により会社の業績が悪化し、新卒採用も厳しい状況。上司から、内定を出すのは最大15名までと厳命されました。内定を辞退する者を考慮に入れて多めに出すことは許されませんでした。

新卒採用の仕事などやったことがなく、前任者の引継書はありましたが、実際にはアシスタントの一般職に聞きながら進めました。当時は今とは違って、紙媒体をベースに進めていました。採用媒体誌に会社の広告を掲載し、資料請求はがきを入れて、請求があった人に資料を送るとともに、リクルーターからコンタクトしてもらうことになっていました。

一方で、会社説明会を全国で開催しました。札幌から福岡まで1ヵ月近く出張し、会社説明会と個別の面談などをして回りました。この説明会と、学生との面接は、とても楽しい仕事でした。相手は、営業部時代の「顧客」から「学生」に変わりましたが、彼らと正面から向き合い、優秀な人材を確保していくという仕事は、営業と通じるところが多く、とても面白く感じました。人事部に来て6ヵ月目でようやく笑顔で仕事をすることができました。



(たしろ えいじ)

1985年3月神戸大学経営学部卒。1985年4月川崎汽船(株)入社後、人事部人事課において人事制度改革・教育体系の抜本的改革を推進する。2005年6月同社を退職し、社会保険労務士田代事務所を設立。2006年7月、株式会社田代コンサルティングを設立し代表取締役役に就任。

人事労務分野に強く、社会保険労務士をはじめとしてDCプランナー1級やビジネスキャリア制度人事分野・労務分野の資格を取得。独立後は、引き続き川崎汽船(株)の人事部の業務の一部を請け負いつつ、各社の人事制度の構築・運用をはじめとして人材教育にも積極的に取り組んでいる。豊富な実務経験に基づき、講演、執筆活動の依頼も多く、日々東奔西走の毎日を送っている。著書に「なぜか会社も社員も気がつかない新しい働き方 人材開発会議」(企業年金

研究所、2007年)がある。人事労務専門誌への寄稿実績も豊富。

* 株式会社田代コンサルティングのホームページ <http://www.tashiro-sr.com/>
ブログ～人事労務屋のつぶやき 独立編～ <http://blog.tashiro-sr.com/>